

2008年ファイル交換ソフトによる情報漏えいに関する調査 調査結果の概要

2008年12月12日

株式会社日立製作所

目 次

Ⅱ. 調査方法	5
1. 調査の目的	5
2. 調査の方法	5
3. 回答数	5
4. 回答者特性	5
Ⅲ. 調査結果	6
1. ファイル交換ソフトの利用状況	6
(1) ファイル交換ソフトの利用率	6
(2) 現在利用者に利用されているファイル交換ソフトの種類	6
(3) ファイル交換ソフトの利用目的	7
2. 現在利用者のファイル交換ソフト利用環境	8
(1) ファイル交換を行うパソコン	8
(2) 自宅で利用するパソコンの共有	8
(3) 使用しているパソコンのOS	9
3. 現在利用者のセキュリティに関する状況	10
(1) ファイル交換ソフト利用時のセキュリティ対策	10
(2) ファイル交換ソフトを介してウイルスをダウンロードした経験	11
(3) ファイル交換ソフトによる情報流出に対する意識	13
(4) 自宅パソコンでの勤務先の仕事	14
4. 流出ファイルに関する状況	15
(1) 流出ファイルのダウンロード経験	15
(2) 流出ファイルのアップロード状況	16
5. 過去利用者がファイル交換ソフトの利用をやめた理由	17

謝辞

本調査は、総務省から委託を受けた「ネットワークを通じた情報流出の検知及び漏出情報の自動流通停止のための技術開発」の成果の一部です。また、本調査は、社団法人コンピュータソフトウェア著作権協会の協力により実施しました。

I. 結果概要

今回の調査では、ウイルス対策ソフトの利用率や自宅で仕事をしないユーザの割合が昨年度より増加するなど、ファイル交換ソフトによる情報漏えい被害の防止に向けた啓発が一定の効果を上げていると思われる結果が得られました。このことから、従来からの技術・運用面での対策とユーザ啓発を継続していくことが重要であると考えます。

しかし、一方で、セキュリティ対策を行わずにファイル交換ソフトを利用するなど、依然として危険な状況でファイル交換ソフトを利用するユーザが一定数存在しており、ファイル交換ソフトを介したウイルスのダウンロード・感染の経験の割合もほとんど減少していません。また、流出ファイルをダウンロードしたことがあると答えたユーザが昨年度より増加しており、意図的に流出ファイルをアップロードしていると答えたユーザも少数ながら存在するなど、ファイル交換ソフトによって流出ファイルが共有されている実態が明らかになりました。このような状況を踏まえると、今後は、ファイル交換ネットワーク上のウイルスや流出ファイルなどの悪意あるコンテンツの流通を防止する観点での技術的対策の開発が必要であると考えられます。

ファイル交換ソフトの利用状況

ファイル交換ソフトを現在利用しているとした回答者は10.3%で、昨年度9.6%から増加しています。

利用されているファイル交換ソフトは、主に利用している順に Winny 28.4%、Limewire 18.3%、Cabos 15.1%、WinMX 10.3%、Share 10.2%となりました。昨年度からWinMXの利用率が約5%低下、Cabosの利用率が微増となり、CabosとWinMXの順位が入れ替わっています。

ファイル交換ソフトの利用環境

現在利用者がファイル交換を利用するPCは、自宅PCが96.6%で昨年度同様に最も多くなっています。また、職場・学校のPCでの利用が10.7%と昨年度7.4%より増加しています。

一方、「自宅では仕事をしない」と答えている現在利用者は昨年度57.7%から70.7%と大幅に増加しています。これは、近年の多数の情報漏えい事故を受けた職場でのセキュリティールール徹底や持ち出し対策が一定の効果をあげているためだと考えられます。しかし、依然3割の現在利用者が「自宅PCで勤務先の仕事をする」と答えているため、業務情報の持ち出し対策やセキュリティ対策の重要性についての継続した啓発が必要です。

ファイル交換ソフトの利用意識

ファイル交換ソフトの利用意識について、「情報漏えいがかかなり心配である」と答えている現在利用者は17.0%、「少し心配である」と答えている現在利用者は49.7%でした。現在利用者の半数以上がファイル交換ソフトを介した情報漏えいに不安を持っていることがわかります。

過去利用者がファイル交換ソフトの利用をやめた理由は、情報流出への懸念が34.2%と最も多くなっています。一方、職場・学校でファイル交換ソフトの利用が禁止されたことを、利用をやめた理由としてあげた過去利用者は3.3%にとどまっています。このことから、単純な禁止措置だけではファイル交換ソフトによる情報漏えい防止には十分ではなく、情報漏えいに関する危険性についての啓発と、自宅でのセキュリティ対策の実施が必要となります。

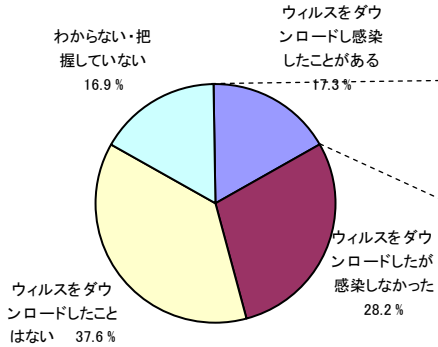
セキュリティ対策の状況

現在利用者のファイル交換ソフト利用時のセキュリティ対策としては、ウイルス対策ソフトの利用が最も多く80.4%となりました。ウイルス対策ソフトの利用は昨年度72.3%から増加しています。一方で、「何もセキュリティ対策をしていない」と答えている現在利用者は10.1%で昨年度とほとんど変わっていません。このことから、情報漏えいにつながるような危険な状況でファイル交換ソフトを利用しているユーザが依然として一定数存在していることがわかります。また、年代別にみると、何もセキュリティ対策をせずにファイル交換ソフトを利用する現在利用者の割合は若年層の方が高い傾向にあり、若年層に対する啓発と、若年層でも導入できるセキュリティ対策の提供が重要になると考えます。

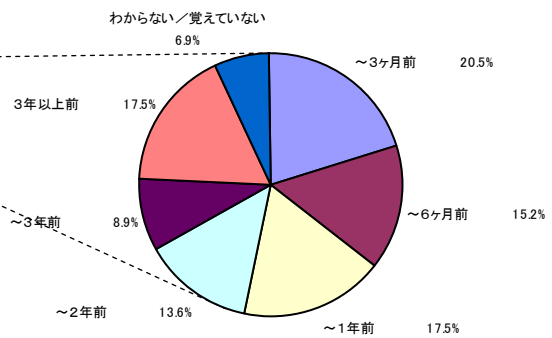
ファイル交換ソフトを介したウイルス感染の状況

今回の調査では、ファイル交換ソフトを介してウイルスをダウンロードした経験がある現在利用者は45.5%でした。そのうち、実際にウイルスに感染したことがあると答えた現在利用者は17.3%おり、感染者の53.2%は「1年以内に感染した」と答えています。これに加えて、ウイルスのダウンロード経験について「わからない」と答えている現在利用者が16.9%いることから、潜在的な感染者も存在していると思われれます。

【ファイル交換ソフトを介したウイルスのダウンロード・感染経験】



【ファイル交換ソフトを介して一番最近ウイルスに感染した時期】



実際に、「HIRT-PUB08007:P2P ファイル交換ソフト環境で流通するマルウェア」(<http://www.hitachi.co.jp/hirt/publications/hirt-pub08007/index.html>)によると、流通しているファイルのうち約5%、アーカイブファイル(zip, lzh, rar)に限れば約20%にウイルス等のマルウェアが含まれていたことが報告されています。このように、マルウェア流通の状況と本調査によるウイルスのダウンロード・感染経験の回答から、ファイル交換ソフトを介した情報漏えいのリスクは依然高いと考えられます。

流出ファイル流通の状況

ファイル交換ソフトによって流出ファイルをダウンロードした経験を聞いたところ、現在利用者の24.1%がダウンロードしたことがあると答えています。昨年度の調査の16.0%から増加しており、ファイル交換ソフトによる情報漏えいの影響が大きくなっていることが懸念されます。

また、ファイル共有を行った現在利用者のうち、4.1%が実際に流出したと思われるファイルをアップロードしていると答えています。さらに、ファイル交換ソフトの利用目的として「流出ファイルのダウンロード」をあげた現在利用者が3.3%いました。このことから、情報漏えいファイルを意図的に共有して拡散させているユーザ、情報漏えいファイルのダウンロードを目的としているユーザが少数ながらも存在していることがわかりました。

II. 調査方法

1. 調査の目的

ファイル交換ソフトを通じた情報漏えいに関する現状を明らかにするために、2007年に引き続き、インターネットユーザのファイル交換ソフト利用状況や意識に関して調査を行った。

2. 調査の方法

本調査は、2008年9月18日～9月26日の期間で、インターネットユーザに対するWEBアンケート方式で実施した。

3. 回答数

有効回答数 20,189人

4. 回答者特性

■ 性別

	全体	男性	女性	無回答
現在利用者	2089 100.0	1271 60.8	818 39.2	0 0.0
過去利用者	2188 100.0	1434 65.5	754 34.5	0 0.0

上段：実数
下段：構成比 (%)

■ 年代

	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	無回答
現在利用者	2089 100.0	160 7.7	556 26.6	695 33.3	454 21.7	174 8.3	50 2.4	0 0.0
過去利用者	2188 100.0	93 4.3	531 24.3	827 37.8	470 21.5	211 9.6	56 2.6	0 0.0

■ 職業

	全体	会社 役員・ 団体 役員	会社 社員・ 団体 職員	公務員	教員	自 営 リ ー ラ ン ス	自 由 専 門 的 職 業	派 遣 社 員 ・ 契 約 社 員	パ ー ト ・ バ イ ト
現在利用者	2089 100.0	53 2.5	891 42.7	42 2.0	21 1.0	159 7.6	51 2.4	84 4.0	193 9.2
過去利用者	2188 100.0	50 2.3	1045 47.8	61 2.8	18 0.8	185 8.5	41 1.9	81 3.7	184 8.4

	専 業 主 婦	小 学 生 ・ 中 学 生	高 校 生	浪 人 中 予 備 校 生	専 門 学 校 大 学 生	無 職 ・ 年 金 生 活	そ の 他	無 回 答
	247 11.8	24 1.1	68 3.3	4 0.2	163 7.8	81 3.9	8 0.4	0 0.0
	231 10.6	4 0.2	39 1.8	4 0.2	141 6.4	102 4.7	2 0.1	0 0.0

※本報告で掲載している数値は、小数点第二位で四捨五入したものである。

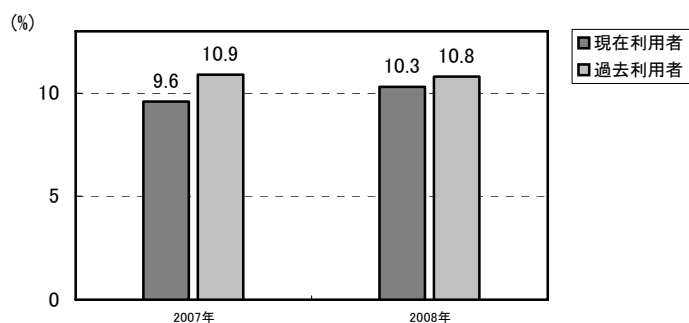
※本報告の「現在利用者」とは、ファイル交換ソフトを2007年9月以降に利用したことがある回答者、「過去利用者」ファイル交換ソフトを現在は利用していないが、2007年8月以前に利用していた回答者を指す。

Ⅲ. 調査結果

1. ファイル交換ソフトの利用状況

(1) ファイル交換ソフトの利用率

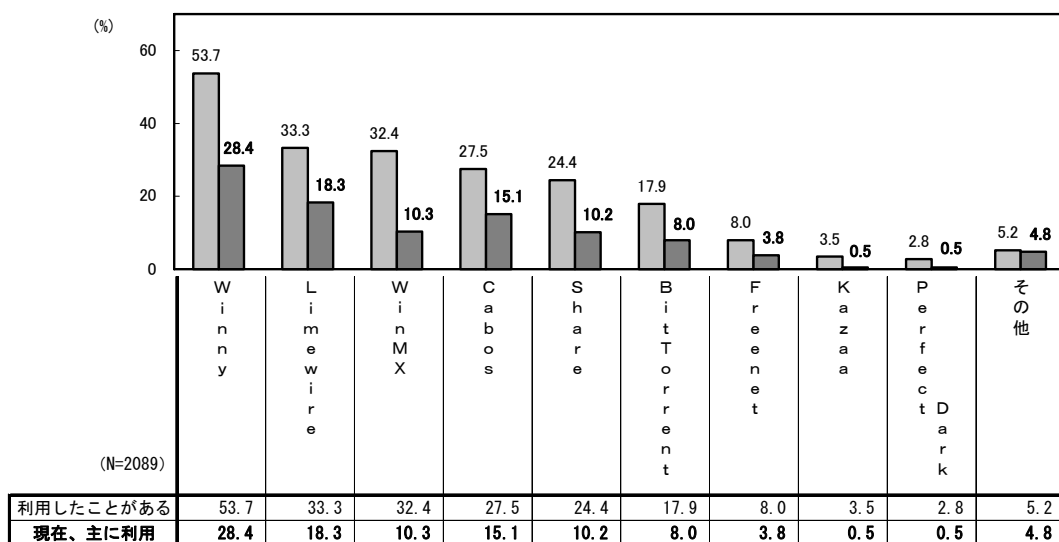
今回の調査では 10.3%の回答者が現在ファイル交換ソフトを利用しており、昨年度 9.6%から増加した。また、過去にファイル交換ソフトを利用していた回答者の割合は、昨年度からほぼ横ばいである。



(2) 現在利用者に利用されているファイル交換ソフトの種類

利用されているファイル交換ソフトは、主に利用している順に Winny 28.4%、Limewire 18.3%、Cabos 15.1%、WinMX 10.3%、Share 10.2%となった。昨年度から WinMX の利用率が約 5%低下、逆に Cabos の利用率が微増となり、Cabos と WinMX の順位が入れ替わった。

これまでに利用したことがあるファイル共有ソフトのトップは前回に引き続き「Winny」で 53.7%となった。「WinMX」は比率が大きく下がり、「Limewire」が上回っている。

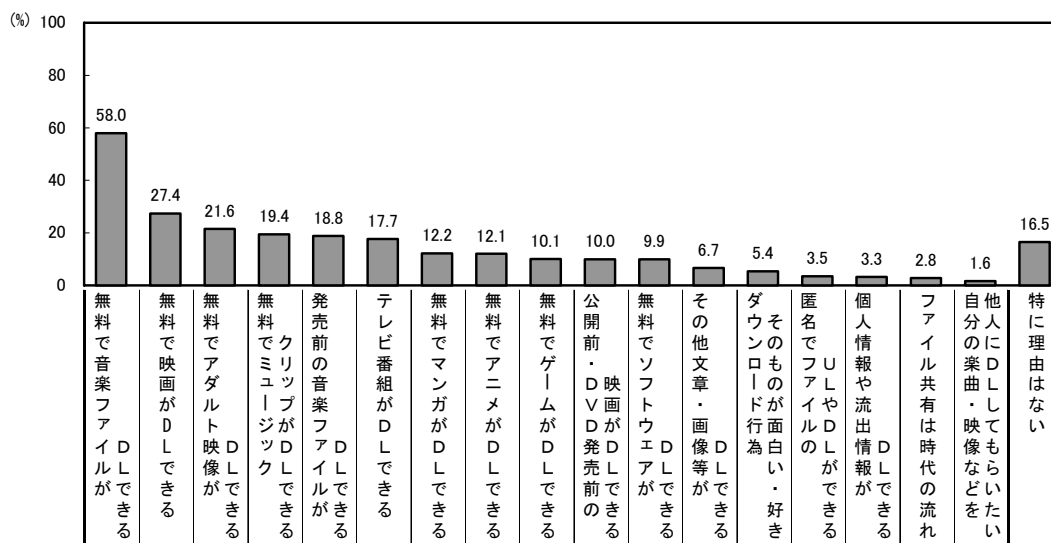


*参考 2007年調査

利用したことがある	54.2	32.1	39.7	24.8	24.7	17.4	6.5	3.7	2.8	4.6
現在、主に利用	27.0	18.8	15.0	13.1	11.0	7.4	2.8	0.5	0.4	4.1

(3) ファイル交換ソフトの利用目的

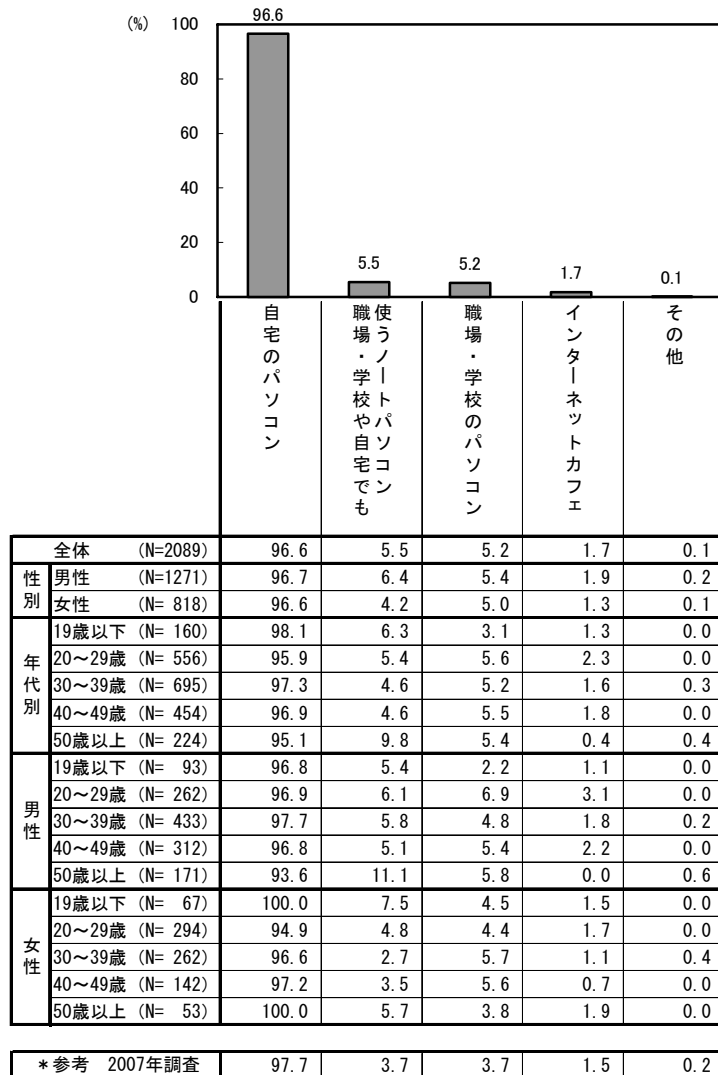
ファイル交換ソフトの利用目的は、映像や音楽のダウンロードがほとんどであった。しかし、3.3%と少数ながら、「個人情報や流出情報のダウンロード」を利用目的としてあげている回答者が存在する。



2. 現在利用者のファイル交換ソフト利用環境

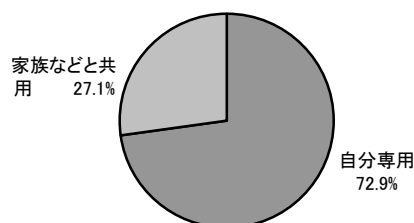
(1) ファイル交換を行うパソコン

ファイル交換を行うのは自宅のパソコンが圧倒的に多く、自宅以外でのファイル交換は極めて限定的である。ただし、昨年度と比較すると、職場・学校のパソコンでの利用が10.7%となっており、昨年度7.4%より増加している。



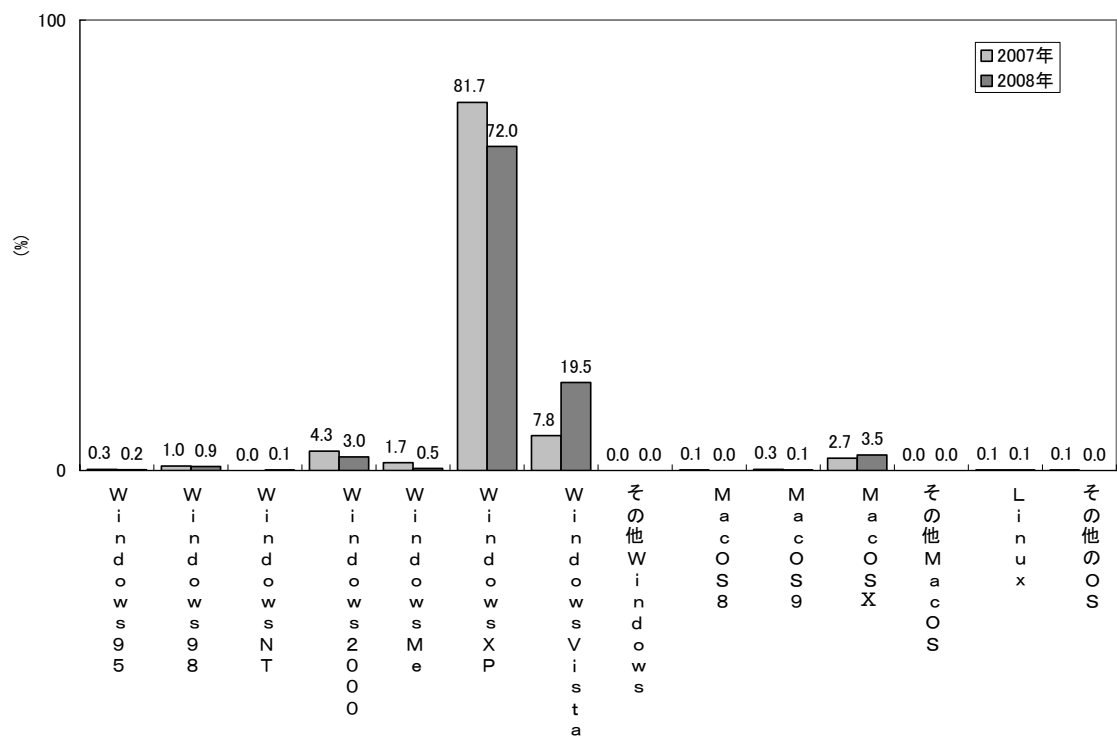
(2) 自宅で利用するパソコンの共有

ファイル交換ソフトの現在利用者が自宅で最もよく利用するパソコンは、自分専用と答えた回答者が72.9%、家族などと共用すると答えた回答者が27.1%となった。



(3) 使用しているパソコンの OS

使用しているパソコンの OS としては Windows XP が72.0%と最も多いが、昨年度から約10%低下した。一方で、Windows Vista の利用率が昨年度と比較して大幅に増加している。その他の古いバージョンの Windows OS の利用は全体的に減少傾向にある。

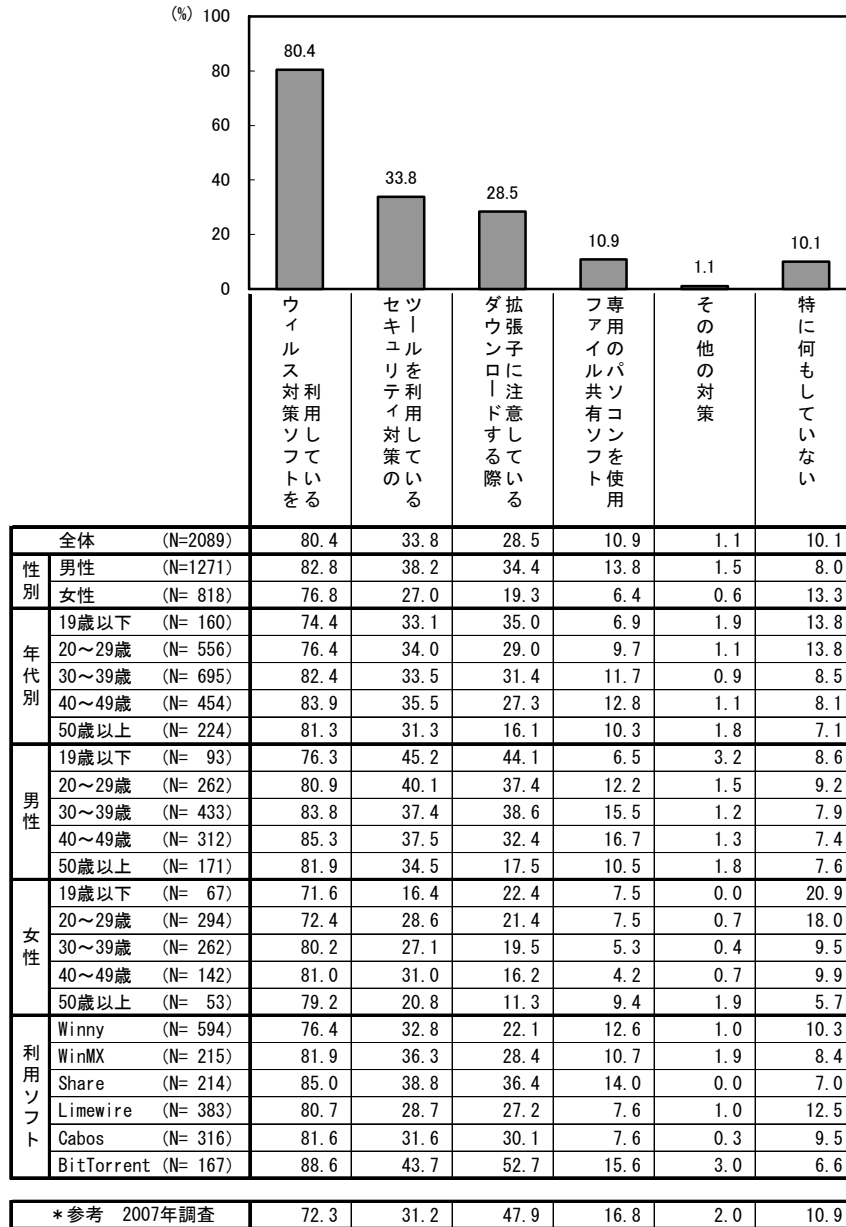


3. 現在利用者のセキュリティに関する状況

(1) ファイル交換ソフト利用時のセキュリティ対策

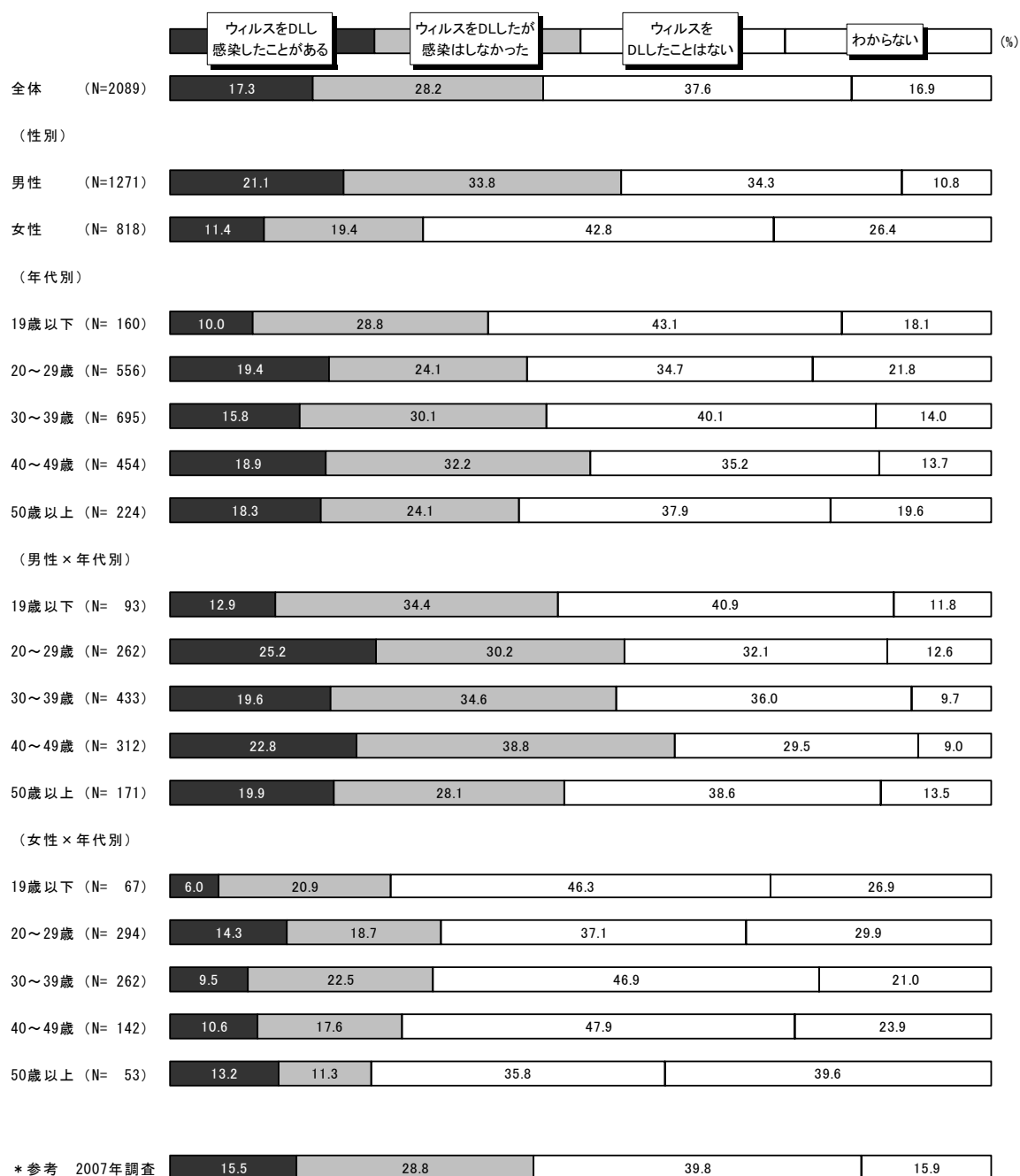
ファイル共有ソフトの利用の際に、「ウイルス対策ソフトを利用している」人は80.4%に上り、2007年調査を約8%上回っている。「特に何もしていない」は10.1%でほとんど変化がみられない。また、「ダウンロードする際に拡張子に注意する」は、2007年調査の47.9%から28.5%に大幅減となっている。

「特に何もしていない」比率は男性よりも女性が上回り、20代以下の女性は約2割を占めている。また、全体的に年齢が若い方が「特に何もしていない」比率が多い傾向にある。利用ソフト別では、「拡張子に注意している」はBitTorrentの52.7%が最も高く、Winnyが22.1%で最低となった。

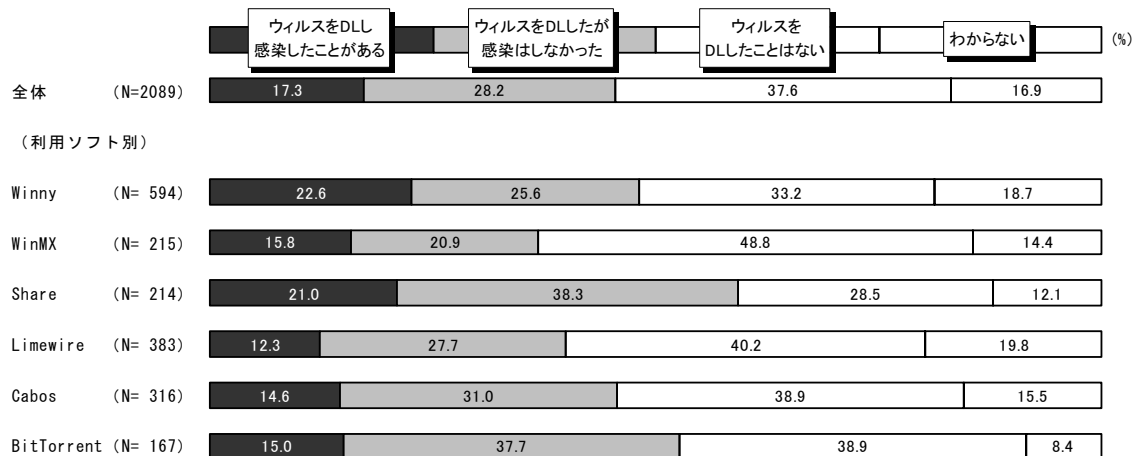


(2) ファイル交換ソフトを介してウイルスをダウンロードした経験

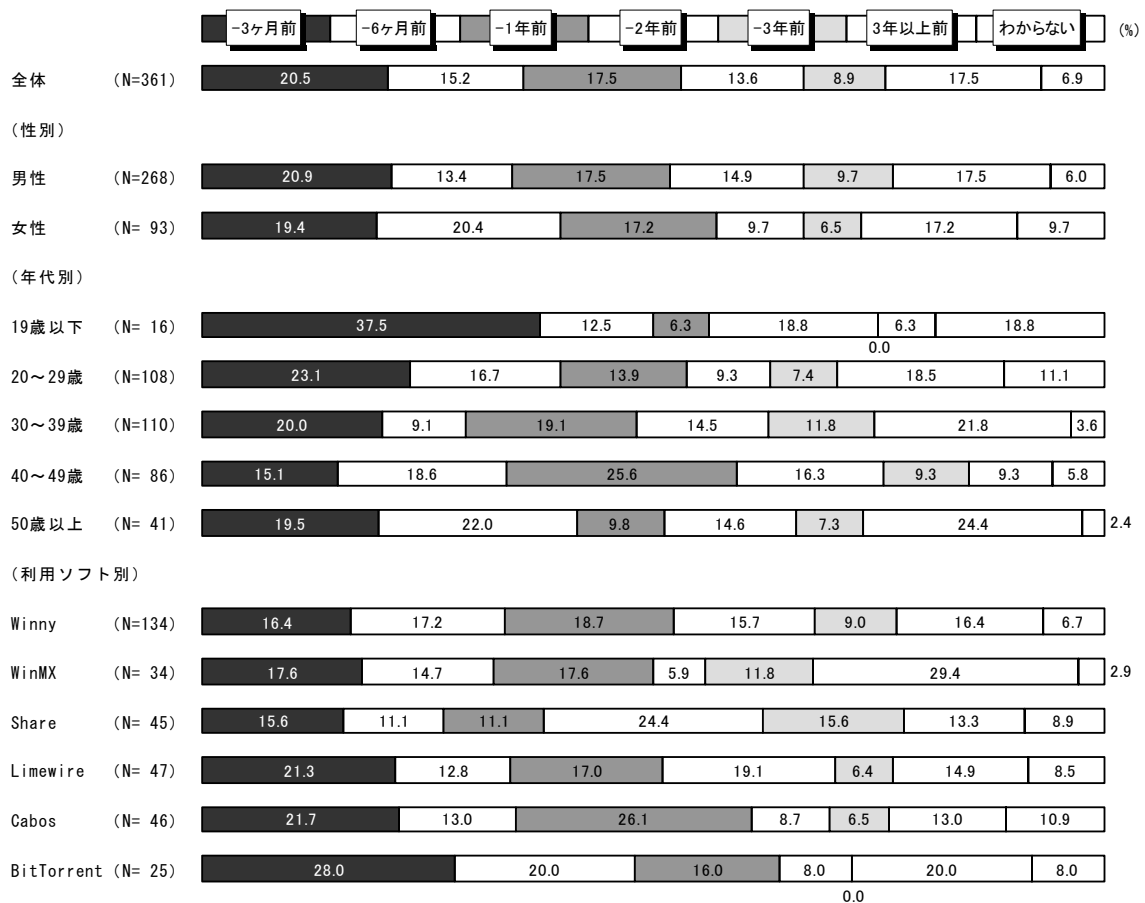
現在利用者のうち、ファイル共有ソフトを介して「ウイルスをダウンロードしたことがある」人は45.5%、そのうち「ウイルスに感染した」のは17.3%で、2007年調査からあまり変化はない。一方、「わからない」と回答した人も16.9%に上っている。



利用ソフト別では、ウイルスのダウンロード経験率は Share の59.3%が最も高かった。ただし、「感染した」は Winny ユーザの方が上回っている。



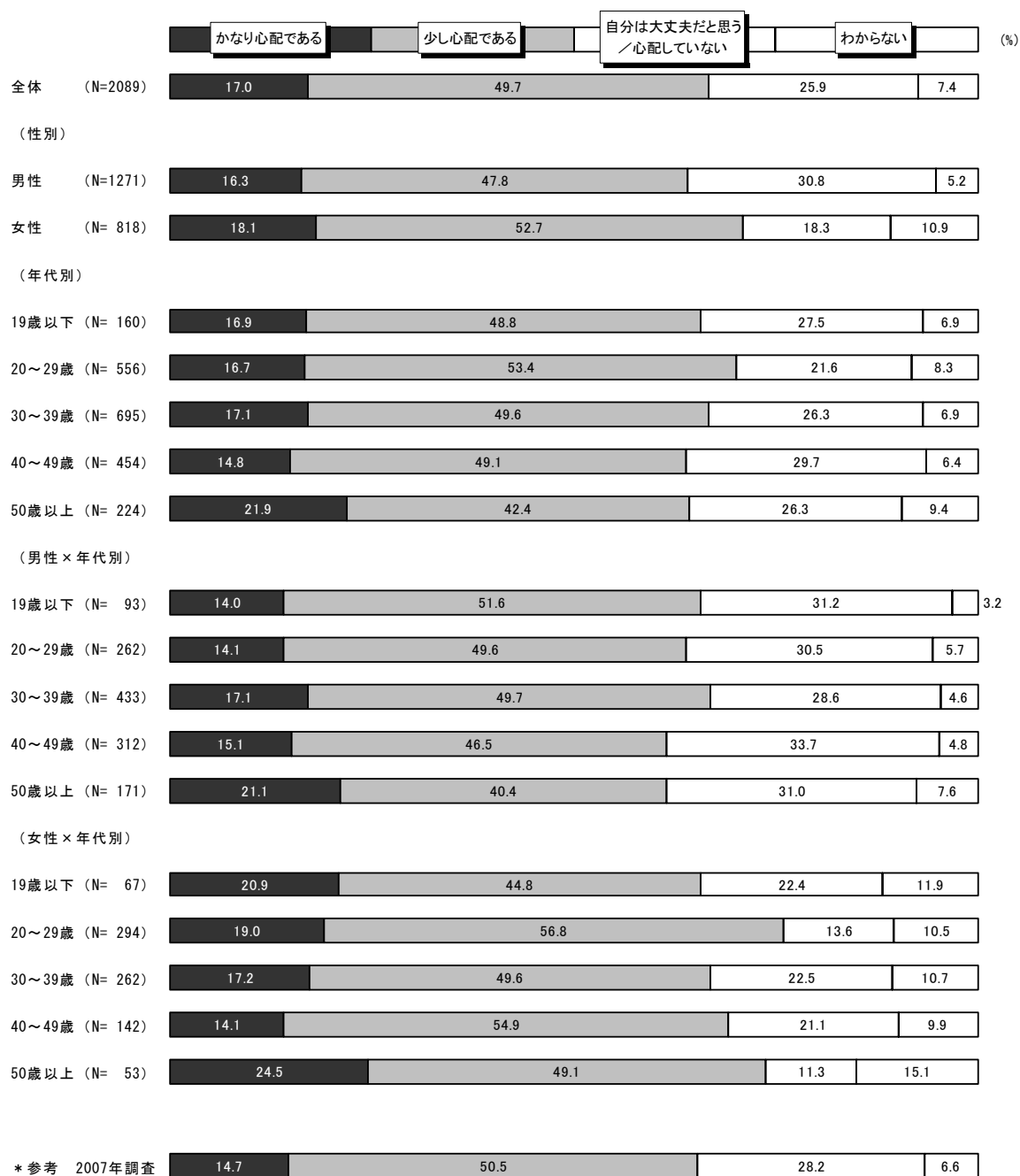
一番最近ウイルスに感染した時期は、「1年以内」が過半数の53.2%にのぼる。うち「3ヶ月以内」が20.5%と回答している。また、感染率の最も高かった Winny では、「1年以内」の感染が52.2%となった。



(3) ファイル交換ソフトによる情報流出に対する意識

ファイル共有ソフトによる情報流出が、「かなり心配である」17.0%、「少し心配である」49.7%を合わせると、ほぼ3人に2人が「心配である」と回答している。2007年調査よりも「かなり心配」の比率がやや高くなっているが、全体としては特に大きな変化はみられない。

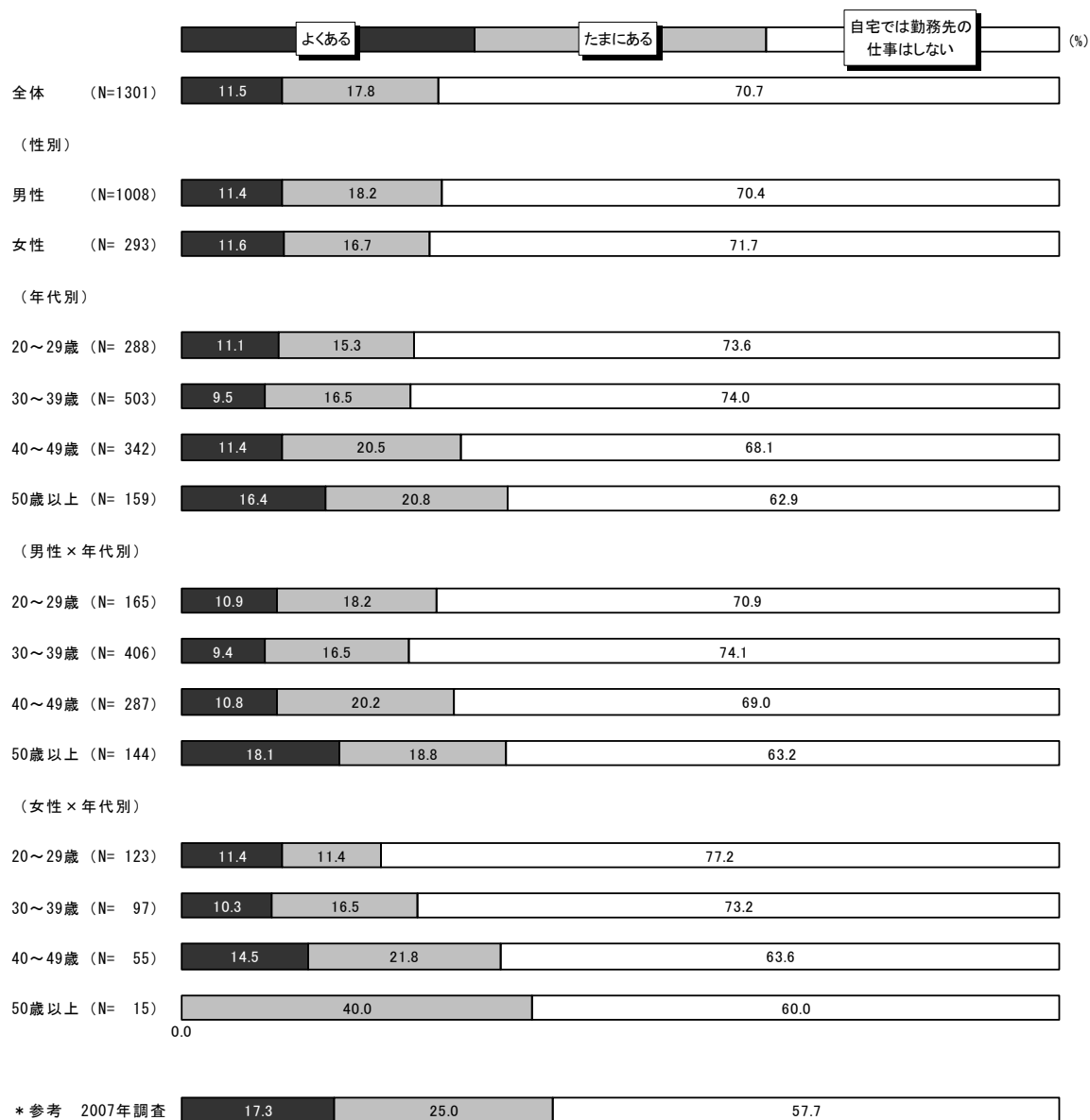
性別では、「自分は大丈夫だと思う／心配していない」の比率は女性の18.3%に対し、男性は30.8%とやや大きな差がみられる。



(4) 自宅パソコンでの勤務先の仕事

「自宅のパソコンでは勤務先の仕事をしない」人は70.7%を占め、2007年調査の57.7%から大きく上昇している。

性別での差はほとんどみられないが、男女とも年代が上がるにつれ、自宅パソコンで勤務先の仕事をする比率が高くなる傾向がみられる。

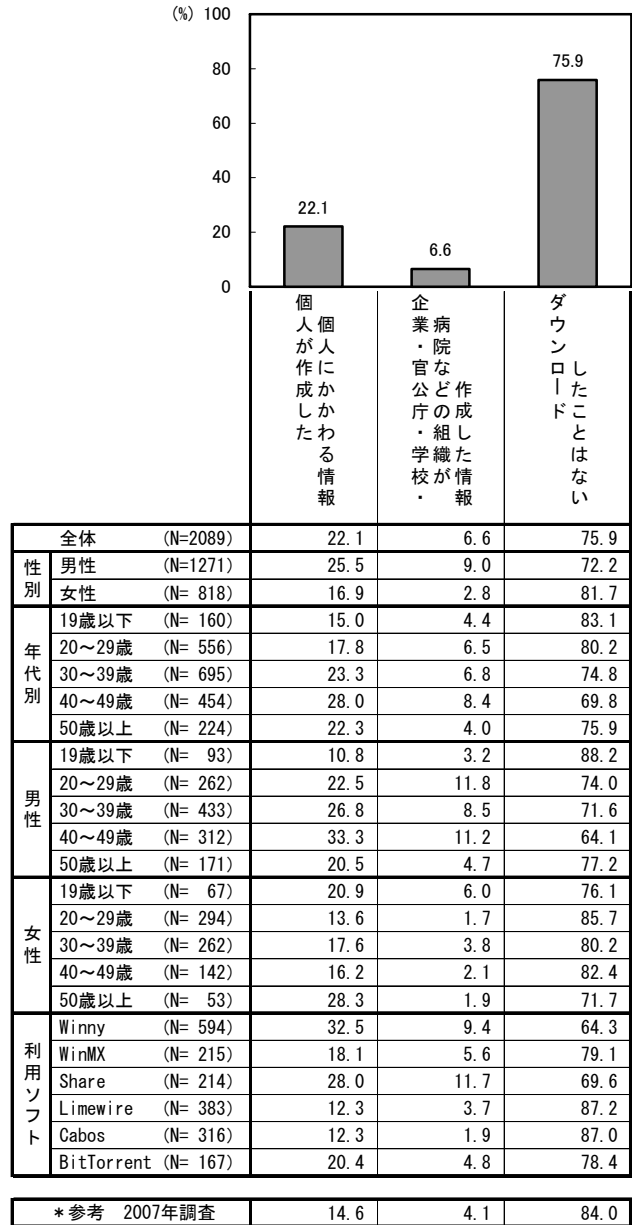


4. 流出ファイルに関する状況

(1) 流出ファイルのダウンロード経験

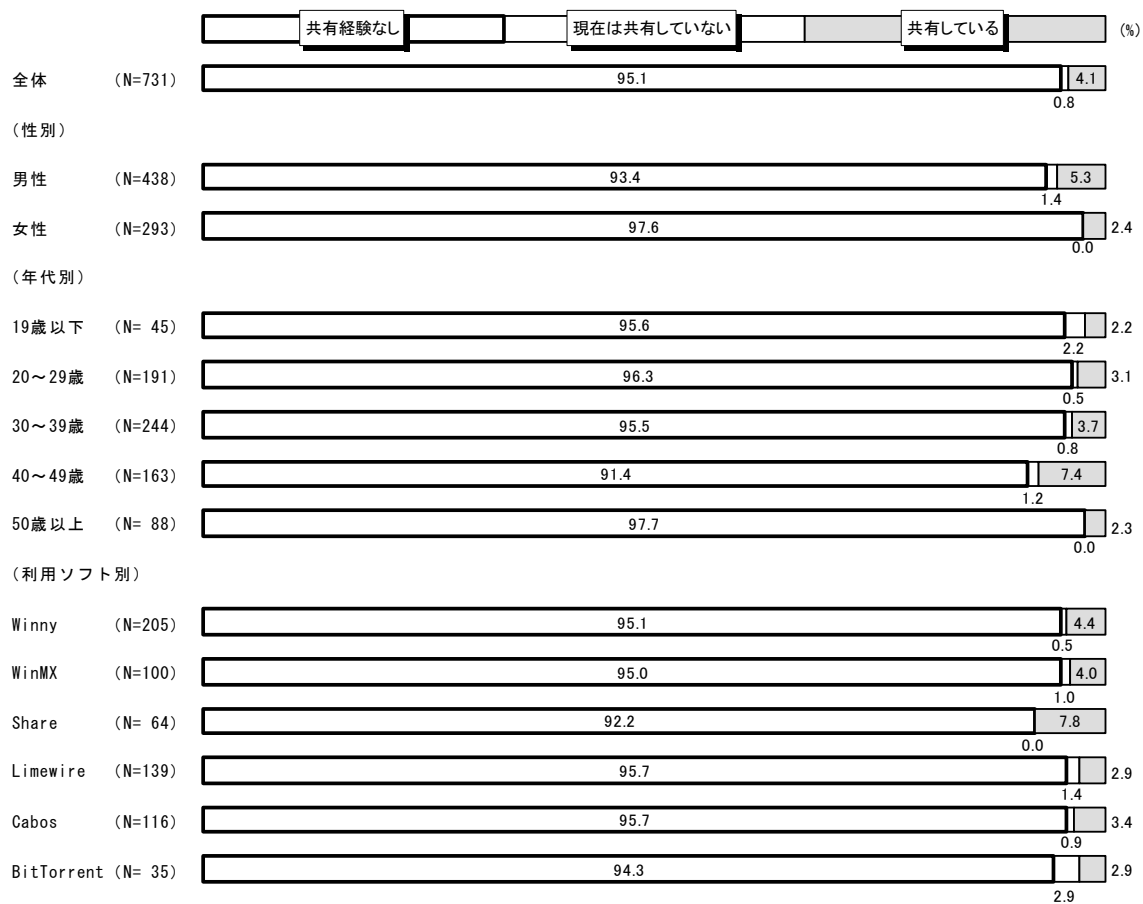
流出したと思われるファイルをダウンロードしたことがある人はファイル共有ソフト利用者の24.1%で、2007年調査の16.0%から大きく上昇している。特に「個人が作成した情報」は14.6%から22.1%に大幅に増えている。

性別では、女性よりも男性のダウンロード経験率の方が高い。また、利用ソフト別では、ダウンロード経験率はWinnyの35.7%が最も多く、「個人が作成した情報」はほぼ3人に1人がダウンロードした割合となっている。一方、「組織が作成した情報」のダウンロード率はShareの11.7%が最も多い。



(2) 流出ファイルのアップロード状況

ファイル共有経験者のうち、流出ファイルをアップロードしている現在利用者は4.1%であった。利用ソフト別で見ると、Share が7.8%で最も多い。



5. 過去利用者がファイル交換ソフトの利用をやめた理由

過去利用者がファイル共有ソフトの利用をやめた最大の理由は、「ウイルスや自分のパソコンの情報が流出するのが心配になった」の34.2%で、2007年調査に続き最大の理由となっている。「会社・学校でファイル共有ソフトの利用が禁止された」ことをやめた理由としてあげた過去利用者は3.3%にとどまっている。

